

(資料1)

川原田家住宅主屋、表門及び塀、裏門及び塀、石垣（かわらだけじゅうたくおもや、おもてもんおよびへい、うらもんおよびへい、いしがき）の概要

員数：3棟1基

所在地：名古屋市昭和区

所有者：個人

名称	形式	大きさ	建設年代	改修歴	登録基準
川原田家住宅主屋	木造2階建瓦葺（一部銅板葺）	建築面積144 m <sup>2</sup>	昭和12年（1937）	昭和56年（1981） 平成30年（2018）	国土の歴史的景観に寄与しているもの
川原田家住宅表門及び塀	木造瓦葺	表門間口2.1m 塀総延長26m	昭和13年（1938）	—	国土の歴史的景観に寄与しているもの
川原田家住宅裏門及び塀	木造瓦葺	裏門間口1.7m 塀総延長15m	昭和13年（1938）	—	国土の歴史的景観に寄与しているもの
川原田家住宅石垣	鉄筋コンクリート造	総延長33m	昭和13年（1938）頃	—	国土の歴史的景観に寄与しているもの

【概要】

川原田家住宅は名古屋市昭和区の名古屋市営地下鉄鶴舞線いりなか駅周辺の閑静な住宅街に位置する。

敷地の北西角に表門が位置し、左右に塀が続く。また、裏門が敷地の南面の中央に位置し、表門と同様に左右に塀が続く。その両門の間、敷地の北面及び南面の一部、西面の道路境界に石垣が廻る。表門をくぐり石段を登るとその先に主屋が建つ。

設計は、戦前に一宮市役所等の官庁施設や岐阜県下呂湯之島館（国登録有形文化財）の設計を手がけた丹羽英二建築事務所が行っている。

主屋は木造2階建、入母屋<sup>いりもや</sup><sup>1</sup>造、瓦葺で下屋銅板葺の建物である。外壁の杉板張上部は黒漆喰塗、入母屋破風<sup>はふ</sup><sup>2</sup>は白漆喰塗とする。玄関脇に洋室（応接室）を付加するなど、和洋折衷型住宅である。

表門及び塀は、木造切妻造瓦葺の屋根を乗せた腕木門<sup>きりづま</sup><sup>3</sup>の表門に、木造瓦葺の塀が接続する。表門東側の袖塀に潜戸を設ける。丘陵地の地形に合わせて高さに変化を与え、

良質な宅地景観を構成している。

裏門及び塀は、木造瓦葺の裏門に木造瓦葺の塀が接続する。塀は腕木で屋根を受けている。裏門は東側の塀と一体となり、欄間で飾られている。

石垣は敷地の北辺及び南辺の一部と、西辺の道路境界に廻る。鉄筋コンクリート造の壁に30cm×90cmの<sup>おおやいし</sup>大谷石を<sup>ぬのづみ</sup>切石布積<sup>4</sup>風に貼る。表門及び塀、裏門及び塀、石垣は主屋と相まって昭和前期の趣を損なうことなく、統一感のある宅地景観を創り出している。

このように、川原田家住宅は大正時代に開発が進められた名古屋の住宅地において、昭和前期の都市近郊住宅の様相を伝える貴重な建造物である。

入母屋<sup>1</sup> 上部に切妻造、下部に寄棟造を組み合わせた構造の屋根のこと。

破風<sup>2</sup> 切妻造や入母屋造の屋根の妻の三角形の部分のこと。

腕木門<sup>3</sup> 門柱の前後に腕木を出し、それぞれの腕木に桁をかけて屋根を付けた門のこと。木戸門。

布積<sup>4</sup> 方形に整形した石を目が横に通るように積み上げる方法。



川原田家住宅主屋  
(名古屋市教育委員会 提供)



川原田家住宅表門及び塀  
(名古屋市教育委員会 提供)



川原田家住宅裏門及び塀  
(名古屋市教育委員会 提供)



川原田家住宅石垣  
(名古屋市教育委員会 提供)